九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[013]ICER Newsletter

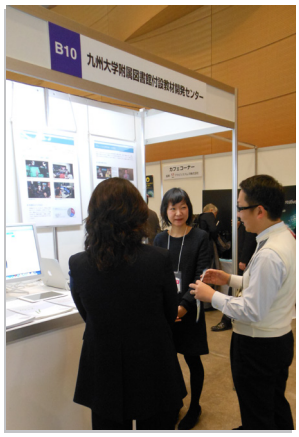
https://doi.org/10.15017/1807630

出版情報：ICER Newsletter. 13, pp.1-, 2015-02. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより
ICER Newsletter

MOOCの取り組みを紹介して
大学ICT推進協議会2014年度年次大会参加記



2014 年 12 月 10 日から 12 日まで、宮城県仙台市にて、大学 ICT 推進協議会 2014 年度年次大会が開催されました。

今回、教材開発センターはブースを出展し、2014 年度に制作・公開に取り組んだ MOOC「Global Social Archaeology」について紹介しました。会場では、MOOC 撮影についての具体的なことから、教材開発センターの活動内容や組織体制に至るまで、さまざまな視点からご質問やご意見をいただくことができました。

本大会では、MOOC についての基調講演やセッションが行われており、これからの MOOC の展開に関心が集まっていることを改めて認識することができました。また、他大学における情報通信技術を用いた教材制作・運用の取り組みについても知ることができ、大いに刺激を受けました。情報通信技術の活用によって、大学における教育や研究の質をいかに向上していけるのか、教材制作に取り組みながら、今後も考えていきたいと思います。

【谷澤 亜里 (学術研究員)】

大学 ICT推進協議会 (AXIES:Academic eXchange for Information Environment and Strategy)
AXIES は、「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」ことを目的として設立。会員ならびに国内の高等教育・学術研究機関間での情報交換の場として、年に一度年次大会が開催されている。年次大会は、2011 年に第 1 回が開催され、今回の 2014 年度年次大会で 4 回目の開催となる。

医学教材開発　～解剖学シリアスゲーム教材「アナトミー・アドベンチャー」公開～

学生との協働による医学教材開発として、今年度は解剖学のシリアスゲーム（学習用ゲーム）を制作しました。開発メンバーは、昨年度の細菌学の教材開発に引き続き、システム情報科学府から 2 名、医学部医学科から 1 名、新たなメンバーとして、工学部電気情報工学科から 1 名、医学部医学科から 2 名が参加しました。学習する意欲を高める教材を目指し、ゲームの形式や出題方法についてディスカッションを重ねました。音楽やキャラクター等のデザインにも工夫を凝らし、複数人でも利用できる、すごろくと陣取りを合わせた形式のシリアスゲーム「アナトミー・アドベンチャー」を開発しました。Android 用アプリとして、タブレット端末で利用できます。11 月に医学部医学科・生命科学科の 2 年生を対象に実施したモニタリングでの意見交換では、ぜひ別の教科のシリアスゲームも開発して欲しいと好評でした。ICER ウェブサイトにアプリを公開していますので、ダウンロードしてご利用ください。URL ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/nextpp_activity　【河野由起子（テクニカルスタッフ）】

Web学習システムの自習用教材で学ぼう

Web 学習システムには、Office2013（Office2013: 良くわかる Office 2013）と情報倫理（情報倫理教材）の自習用教材が提供されています。

Web 学習システムに SSO-KID を使ってログインすると、すべての学生、職員、教員のページに図 1 のように教材の一覧が表示されます。

図 1　教材の一覧

(1)Office 2013

「Office2013: よくわかる Office 2013」をクリックすると、Word 2013、Excel 2013、PowerPoint 2013 の教材（基礎編と応用編）があります。各章毎に説明や課題があり、音声の説明とキー操作や画面の変化を見ながら学ぶことができ、自分のペースで確実にこれらのソフトウェアの使い方を学べます。知っているようで意外に知らない様々な機能を一度はきちんと学んでもらえたらと思います。

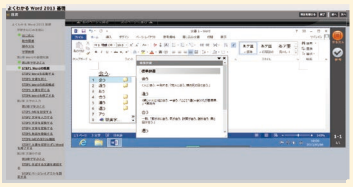


図 2　よくわかる Office2013(基礎)

(2) 情報倫理

「情報倫理デジタルビデオ小品集 4」が提供されています。日常で遭遇する様々なネットワークに関連するトラブル、その原因、対処方法などが分かり易く解説されています。日本語版、英語版、中国語版のテキストがあります。

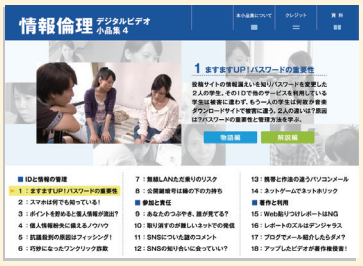


図 3　情報倫理デジタルビデオ小品集 4

是非、この教材を使って、安全・安心な生活を送るためにも、情報倫理やネットワークセキュリティについて学ばれるようにお勧めします。

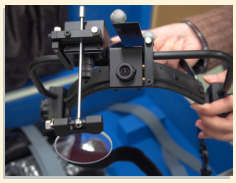
【藤村 直美 教授（教材開発センター長）】

撮影の現場から ～機材紹介 スタジオ音声機器編～

皆さんは、「遅延」という言葉から何を思い浮かべられるでしょうか。地上デジタル放送に代表されるように、映像機器をデジタルで接続すると、映像信号は音声信号よりも遅れて伝送されます。それで映像と音がずれるのです。教材開発センターのスタジオに導入されているデジタルオーディオミキサー（DM1000VCM）は、48 個の音声信号を入力でき、音量や音質を調整するだけでなく、「遅延」もそれぞれ入力する音ごとに調整可能です。例えば、昨年九州大学で行われた若田さんの宇宙ステーションとの会話もこの機能を使って映像と音が合った状態にして制作していたのです。ミキサー以外にも、使用しているマイク（COS-11）は写真のように一円玉よりも小さいピンマイクで、マイクを装着している感覚もなく、ハンドマイクのように手に持つ必要もありません。また、講義などで使用しているスライドに、ナレーションや音楽、効果音などを付加し、視聴覚効果を高め、音の演出をすることが可能な機材が揃っています。お問い合わせをお待ちしています。

【稲田 環（テクニカルスタッフ）】

次世代の教材開発を支える技術
～その6（最終回）視線追尾装置～



今回紹介する 2D/3D 教材開発システムは、「視線追尾装置」です。この装置は、瞳の動きを捉えて人間がどこを見ているかを計測することが出来ます。

教材開発センターで管理している視線追尾装置はヘッドマウント式（装置を頭部に装着する方式）の装置です。この装置には、小型カメラの他に、LED ライトと反射ミラーが備え付けられています。反射ミラーを使って、LED ライトの光を瞳に当てることで、小型カメラが瞳の追跡する精度を高めています。

視線追尾装置は、人間の瞳の動きの解析を行うのに非常に適しています。解析結果は、よく見られている部分とそうでない部分とをエリアごとに色分けして可視化することが出来ます。視線追尾装置は、電子教材のユーザーインターフェイスの研究などへの活用が期待されています。

視線追尾装置を利用して、視線の解析や研究を行ってみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に共同研究をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。

【金子 晃介 助教】

電子教材著作権講習会のお知らせ

録画した講義を公開したり、講義資料や学習資料をウェブで共有したりするとき、教材に「他人の著作物」が含まれていると、著作権への配慮が必要です。電子教材に含まれる他人の著作物の使用許諾申請や著作権者のガイドラインに基づく点検、教材作成者側のガイドライン提案など、これまでの経験や疑問をシェアしたいと思います。ご希望の題材を取り上げてお話いたしますので、ご要望を下記ウェブサイトの申込みフォームにご記入ください。ご自分の教材をお持ちいただくことも可能です。また、協調学習など学習資料をウェブで共有している学生のみなさんの参加もお待ちしています。

日時　平成 27 年 2 月 12 日（木）　17:00~18:30

場所　馬出キャンパス　総合研究棟 2 階 201 セミナー室

申込フォーム　http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20150113

編集・発行:九州大学附属図書館付設教材開発センター　info@icer.kyushu-u.ac.jp
Copyright(C) 2015 Innovation Center for Educational Resource. All rights reserved.